

2020年度は、待望の新人薬剤師2名を迎え入れ、薬剤師6名(定数7名で1名は育休)・薬局事務2名体制でスタートをきることができた。また、6月より産休となる薬剤師のピンチヒッターとしてはじめて派遣薬剤師を採用した。コロナ禍において新人教育のための研修会が開催できない状況で、外来患者対応を派遣薬剤師に担ってもらいながら、上半期は特にOJTによる新人薬剤師の育成に力を注いだ。その成果もあり、下半期には新人薬剤師が病棟を担当することもできるようになり、2019年度とは比較にならないほど安定した薬局体制の構築と、薬局の理念である、患者さんを第一に考えた、安心・安全で良質な薬物療法の提供に努めることができた。また、働き方改革でも「協働」を推進し、時間外業務の大幅な削減によるスタッフの身体的・精神的負担を軽減することができ、あらためてチームワークの良さを認識・継続できた1年であった。

〔薬局理念〕

患者さんを第一に考えた、安心・安全で良質な薬物療法の提供に努めます。

〔基本方針〕

- ・医療チームの一員として他職種と連携をはかり、医薬品の適正使用を推進します。
- ・向上心を持って自己研鑽に励み、より専門性の高い薬剤師を目指します。
- ・教育・研修を推進し、人として、医療人として暖かみのあるスタッフ育成に努めます。

2020年度の主な活動

1. 人材育成 (特に新人薬剤師、派遣薬剤師、実務実習生)

薬剤師6名のうち半数の3名が新しく勤務することになったため、薬局事務スタッフにも協力してもらいながら、まずは業務内容の把握・習得に努めてもらった。上半期に集中して指導を行った結果、下半期には、適宜サポートしながらではあるが無菌調製業務や病棟業務にも携わることができ、また、休日当番も対応できるまで成長してくれた。派遣薬剤師は、調剤薬局勤務10年以上の経験者ではあるが、病院勤務がはじめてのため電子カルテの活用術や調剤薬局ではほとんど触れることのない注射薬などについて指導を行い、限られた業務内容ではあるが即戦力として活動してもらった。また、コロナ禍ではあったが、下半期の2.5ヵ月間、薬学部5年生の実務実習も受け入れることができ、新人薬剤師も指導する立場となって育成に励み、さらなる自己成長に繋げることができた。何かと制約の多い2020年度ではあったが、薬局全体で成長することができ実り多い1年となった。

2. 外来対応

外来調剤は2020年度も薬局の中心業務であった。コロナ禍の中、薬局窓口にはアクリル板を設置。必要に応じて車待機場まで向う側の服薬指導、お薬手帳や持参薬処理のために随時手指消毒など、感染対策を徹底しながらの活動であった。高齢者の多い当院では、マスクの上に、アクリル板越しと、非常にコミュニケーションのとりづらいう状況ではあったが、患者さんが聞き取れるように、より丁寧に、ゆっくりと、服薬指導を行った。また、2020年度も患者さんのニーズに可能な限り応えるよう取り組み、ジェネリック医薬品への切り替えも積極的に行った。一包化調剤や、残薬調整についても非常に手間のかかる業務ではあるが、断ること無く業務遂行し、服薬コンプライアンス向上、医療資源の有効活用、および患

者さんの負担軽減にも大いに貢献できたものとする。

	2020年度	2019年度	2018年度
一包化調剤 (外来)	2,189件	2,208件	2,169件
後発医薬品使用割合	83.7%	←2021年3月のデータ	

3. 病棟業務

新人薬剤師の成長に合わせて、前年取り下げていた「病棟薬剤業務実施加算」を7月に再取得。また、ジェネリック医薬品の使用促進にも取り組み、同月から「後発医薬品体制加算2」も取得。新人薬剤師にも上半期から病棟活動に関わってもらい、下半期には、一部病棟を任せられるまで成長してくれた。土日・祭日の勤務も継続し、365日毎日薬剤師が勤務していることで、タイムリーな持参薬鑑別報告書作成をはじめ、リスク管理や医薬品の適正使用にも貢献できたものとする。コロナ禍で病棟活動にも制限があるなか、できることをコツコツと積み重ねていった1年であった。

	2020年度	2019年度	2018年度
薬剤鑑別 (件)	903	995	1,041

4. 抗がん剤および高カロリー輸液の無菌調製

抗がん剤の無菌調製については、コロナ禍もあつたか、件数は前年度より大幅に少なくなったが、1年を通して入院・外来を問わず、全ての抗がん剤の無菌調製を行うことができた。件数減で逆に余裕ができたことで、新人薬剤師の育成にも時間をかけることが可能となり、下半期には新人薬剤師が主担当者として無菌調製に従事できるようになった。

無菌調整 (件)	2020年度	2019年度	2018年度
抗がん剤	87	135	144
高カロリー輸液	23	194	368

5. 自己啓発

コロナ禍のため集合研修もできるだけ控えたため、医薬品に関する知識習得のための院内研修会も開催できなかったが、薬剤師会や製薬会社主催のWeb研修会に各自積極的に参加し、日々の研鑽とスキルアップに努めた。

6. 医薬品在庫管理および情報提供

2020年度も後発医薬品への切替えを推進し、7月より「後発医薬品使用割合80%以上」が要件となる「後発医薬品体制加算2」を取得。また、高額医薬品の適正管理や期限切れ医薬品の削減、包括病棟におけるコスト管理など、経営面に貢献すべく取り組んだ。医薬品情報データベースにはDIニュースをはじめ、看護師向け情報、安全性情報、疾患の基礎知識等々掲載し、情報の共有化・一元化に努めるとともに、いつでも、どこからでも確認できるよう改訂・更新を随時行った。

	2020年度末	2019年度末	2018年度末
後発医薬品使用割合 (%)	83.7	84.3	74.9

今後の課題と展望

2021年度は、新人薬剤師2名の成長とともに、安定した薬局体制の維持と、COVID-19に対する薬物治療薬の情報収集および情報提供など、医薬品のさらなる適正使用に貢献できるよう努めていきたい。また、新型コロナワクチン調製支援をはじめ、引き続き「協働」「業務効率化」を念頭に、いつでもサポートできる体制づくりを推進し、チームワークで「安心・安全で良質な薬物療法の提供」を継続していきたい。